

目次

はじめに	3
推薦のことば	4

Part 1 目指せ！ 咬合採得のスキルアップ	9
-----------------------------------	---

Chapter 1 咬合採得の全体像を把握しよう	11
------------------------------------	----

1 なぜ咬合採得を学ぶ必要があるのでしょうか？	12
1 なぜ咬合採得を学ぶと『精密な補綴装置』の製作が可能になるのでしょうか？	12
2 なぜ咬合採得を学ぶと『より正確な診断』を下せるようになるのでしょうか？	14
2 臨床において咬合採得を必要とする場面	16
1 咬頭嵌合位を基準とした咬合採得(マッシュバイト)	16
2 生理的顎頭位を基準とした咬合採得(セントリックバイト)	17
3 クロスマウントのための咬合採得	18
4 多数歯欠損・無歯顎症例のための咬合採得(バイトリムを用いた咬合採得)	19
3 どのようなシチュエーションで、どの咬合採得法を選択すべきでしょうか？	20
1 診断時に用いる咬合採得法の使い分け	20
2 補綴装置製作時に用いる咬合採得法の使い分け	21
Tools 精密な補綴装置の製作に求められる咬合器の要件	24

Chapter 2 部分治療にて使用する咬合採得法 咬頭嵌合位を基準とした咬合採得(マッシュバイト)	25
---	----

1 マッシュバイト(咬頭嵌合位)が使える症例・使えない症例	26
2 マッシュバイト採得は精密な補綴装置製作における重要な第一歩	28
3 マッシュバイトの咬合調整・診断への応用	32
1 『より正確な咬合調整』へのマッシュバイトの活用 ― 『咬合接触の強さ』と『咬合干渉のリスク』の推察	32
2 『咬頭嵌合位の安定度の評価』へのマッシュバイトの活用 ― 咬合接触面積の総和や左右のバランスの可視化	34
4 片顎トレーによる印象の際のマッシュバイトは要注意	36
〈参考症例〉 咬頭嵌合位を基準とし、マッシュバイトのみで治療を行った症例(部分治療症例)	38
Tools 筆者がマッシュバイト採得時に使用しているバイトマテリアル	44

Chapter 3

咬合再構成にて使用する咬合採得法

生理的顎頭位を基準とした咬合採得(セントリックバイト)	45
1 なぜ咬合再構成症例ではセントリックバイトが必要なのでしょうか?	46
2 セントリックバイトの採得法	48
1 下顎を誘導しないアンガイド法で採得する	48
2 セントリックバイトを採得するにあたっての注意事項	50
3 セントリックバイトを採得するにあたっての前処置(筋の緊張解除法)	52
4 セントリックバイト採得ステップ	54
3 セントリックバイトの診断への活用法	58
1 下顎位およびアンテリアカップリングの評価	58
2 咬合再構成症例における補綴修復範囲の評価	63
3 矯正治療時のセットアップ模型への応用	72
Tools 筆者がセントリックバイト採得時に使用しているバイトマテリアル	78

Chapter 4

ファイナルプロビジョナルレストレーションを最終補綴に移行するテクニック

クロスマウントのためのクローズドバイトレコード	79
1 そもそもクロスマウントとは何なのでしょうか?	80
2 ステップで解説! クロスマウントのためのクローズドバイトレコード	84
3 症例でおさらい! クロスマウントのためのクローズドバイトレコードのステップ	92
4 クローズドバイトを用いたクロスマウントを行うことで得られるメリット	98
クローズドバイトを用いたクロスマウントのまとめ	100

Chapter 5

プロビジョナルレストレーションのステージを移行する際に使用するテクニック

クロスマウントのためのオープンバイトレコード	101
1 「クローズドバイト」と「オープンバイト」、何が違うのでしょうか?	102
1 クロスマウントのためのクローズドバイトレコードが使えない場面	102
2 プロビジョナルのステージ移行時には特有のジレンマがある	104
3 ジレンマを解消するクロスマウントのためのオープンバイトレコード	105
2 ステップで解説! クロスマウントのためのオープンバイトレコード	106
3 症例でおさらい! クロスマウントのためのオープンバイトレコードのステップ	110
オープンバイトを用いたクロスマウントのまとめ	118

Chapter 6

無歯顎や多数歯欠損に対するデンチャー症例で使用する咬合採得法

バイトリム(咬合堤)を用いた咬合採得	119
1 バイトリム(咬合堤)を用いた咬合採得は難しい!	120
2 なぜバイトリムを用いた咬合採得では術者が多くの基準(決定要素)を設定しなくてはならないのでしょうか?	122
1 有歯顎と無歯顎の咬合採得には根本的な違いがある	122
2 無歯顎や多数歯欠損の補綴処置は、自由度が高い分、術者が設定しなければならない項目が多い	124
3 なぜバイトリムを用いた咬合採得ではプロビジョナルによる踏襲と変更が難しいのでしょうか?	126
4 バイトリムによる咬合採得を成功に導く「基準(決定要素)」	130
1 上顎前歯切端の位置	131
2 軟組織のボリューム(リップサポート)	132
3 咬合平面	134
4 正中線	138
5 咬合高径(垂直的顎間関係)	139
6 水平的顎間関係	141
7 咬合採得を終えたバイトリムを見てみよう	144
5 コンプリートデンチャーの咬合採得時にだけ使える裏技 デンチャークロスマウント	147
1 デンチャークロスマウントとは	147
2 デンチャークロスマウントのステップ	148
バイトリムを用いた咬合採得のまとめ	154

Chapter 7

咬合再構成症例におけるインプラントが混在する際の咬合採得

1 なぜファイナルはセメント固定なのに、1stプロビジョナルはスクリュー固定なのでしょうか?	156
1 治療の初期の段階では、咬合高径や咬合平面を最終決定していないため	156
2 治療の初期の段階では、エマーゼンスプロファイルの形態を最終決定していないため	157
2 スクリュー固定時の咬合採得法	158
1 歯科技工士の立ち会いが可能な場合の咬合採得法	159
2 歯科技工士の立ち会いが困難な場合の咬合採得法	162
咬合再構成症例におけるスクリュー固定時のインプラントの咬合採得法のまとめ	164

Part 2 症例を通じて「咬合採得の位置づけ」を再確認しよう 165

Case 1
咬合高径を若干減少させアンテリアカップリングを獲得した症例 166

Case 2
骨格性Ⅱ級に対して補綴治療により咬合再構成を行った症例 172

Case 3
多数歯欠損に対しコーヌステンチャーで対応した症例 178

Part 3 もっと詳しくバックグラウンドを学びたいかたへ 183

もっと詳しく 1
部分治療か咬合再構成かの鑑別方法 184

もっと詳しく 2
プロビジョナルレストレーションの種類 190

おわりに 194
参考文献 195
著者紹介 196